

「教員免許状更新講習（選択領域 18時間）」

～学級経営に活かす豊かな体験活動～

1. 趣旨

様々な立場の講師からの講義を通して、学習指導要領改訂を踏まえた、最新の教育動向を学びながら、体験活動の重要性を理解するとともに、本所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習を通して、体験活動の必要性や有用性を実感するとともに、教員としての資質向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和3年7月22日（木）～7月24日（土）

(2) 参加者 教員免許状取得者 16名

①校種 小学校 14名 中学校 2名

②男女別 男性 8名 女性 8名

③都道府県別 群馬県 10名 栃木県 5名 埼玉県 1名

3. 企画運営のポイント

防災教育に焦点を当て、「避難所運営ゲーム」や「防災食体験」などを取り入れたプログラムを実施する。また、参加した教員が学校・学級にもちかえってすぐに実践できるプログラムである「クラフト」や「ビジュアルオリエンテーリング」を、実践しながらその効果を体験できるように実施する。

4. 日程

	午前	午後	夜
7月 22日 (木)	開校式 講義「学校教育の現状と課題」 講師 群馬県教育委員会 義務教育課長 栗本郁夫	講義「熱中症予防対策講義」 講師 国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧 大塚製薬工場 別島徹憲 講義・実習「ビジュアルオリエンテーリング」 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村純子	
7月 23日 (金)	講義・演習「防災教育プログラム体験」 講師 国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧 日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	実習「クラフト」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 渡邊秀幸	演習「野外炊事（防災食体験）」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 渡邊秀幸
7月 24日 (土)	講義「学校教育における体験活動の意義」 講師 群馬大学 共同教育学部教授 西菌 大実	履修認定試験 閉講式	

5. 主な活動内容



「学校教育の現状と課題」



「熱中症予防対策講義」



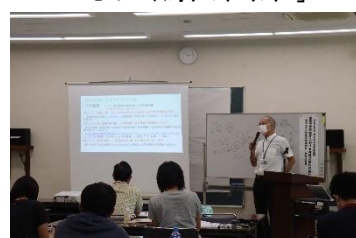
「ビジュアルオリエンテーリング」



「防災教育プログラム体験」



「野外炊事（防災食体験）」



「学校教育における体験活動の意義」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足16人(100%) やや満足0人 やや不満0人 不満0人

(2) 参加者の声

- ・「学校教育の現状と課題」では、ICTへの取り組みの重要性を確認できました。令和の日本型学校教育の内容についても理解が深まりました。
- ・「熱中症予防対策講義」では、暑熱順化の大切さや、脱水状況のチェック仕方や知識、心構え等を学びました。学校に戻って職員に周知したいと思います。
- ・「ビジュアルオリエンテーリング」を実際に体験することにより、判断力、思考力、表現力、協力して活動する力の向上につながると実感しました。
- ・「防災教育プログラム体験」では、避難所運営の難しさや心構えの大切さを理解できました。自校の危機管理に生かせる内容でした。
- ・「クラフト体験」は楽しく活動でき、野外炊事にもつなげやすいので林間学校でも取り入れたいと思います。
- ・「野外炊事(防災食体験)」でのビニルご飯は初体験だったが美味しくできました。身近なものを使ってできると同時にコロナ禍での野外調理としても代用できると思います。
- ・「学校教育における体験活動の意義」では、体験活動の意義が、教育基本法はもちろん、学習指導要領の中でも重点的に位置付けられている理由が分かりました。我々の教育活動の根底を知ることができました。

(3) 成果

今回の講習は、防災に焦点を当てて、防災食や避難所運営、熱中症対策、コロナ禍での対応に関する体験活動を意識したプログラムを組んだ。講義では、ICT活用やSDGsに関する内容を取り入れ、社会の変化に対応した令和の日本型教育を中心とした。これらを通して、参加者自身が、自校での防災やコロナ対応の計画等に積極的に関わろうとする意欲をもたせることができた。

ビジュアルオリエンテーリングや防災食、クラフトなど、学校でも活用できるプログラムを紹介することで、講習での学びを実践しようとする意欲をもたせることができた。

(4) 課題

人数は16名となったが、コロナ禍を考えると、ちょうどよい人数だった。アンケートにもあったが、部屋を個室にするなどの対応を考えてもよい。

担当：主任企画指導専門職 塩原 基寧